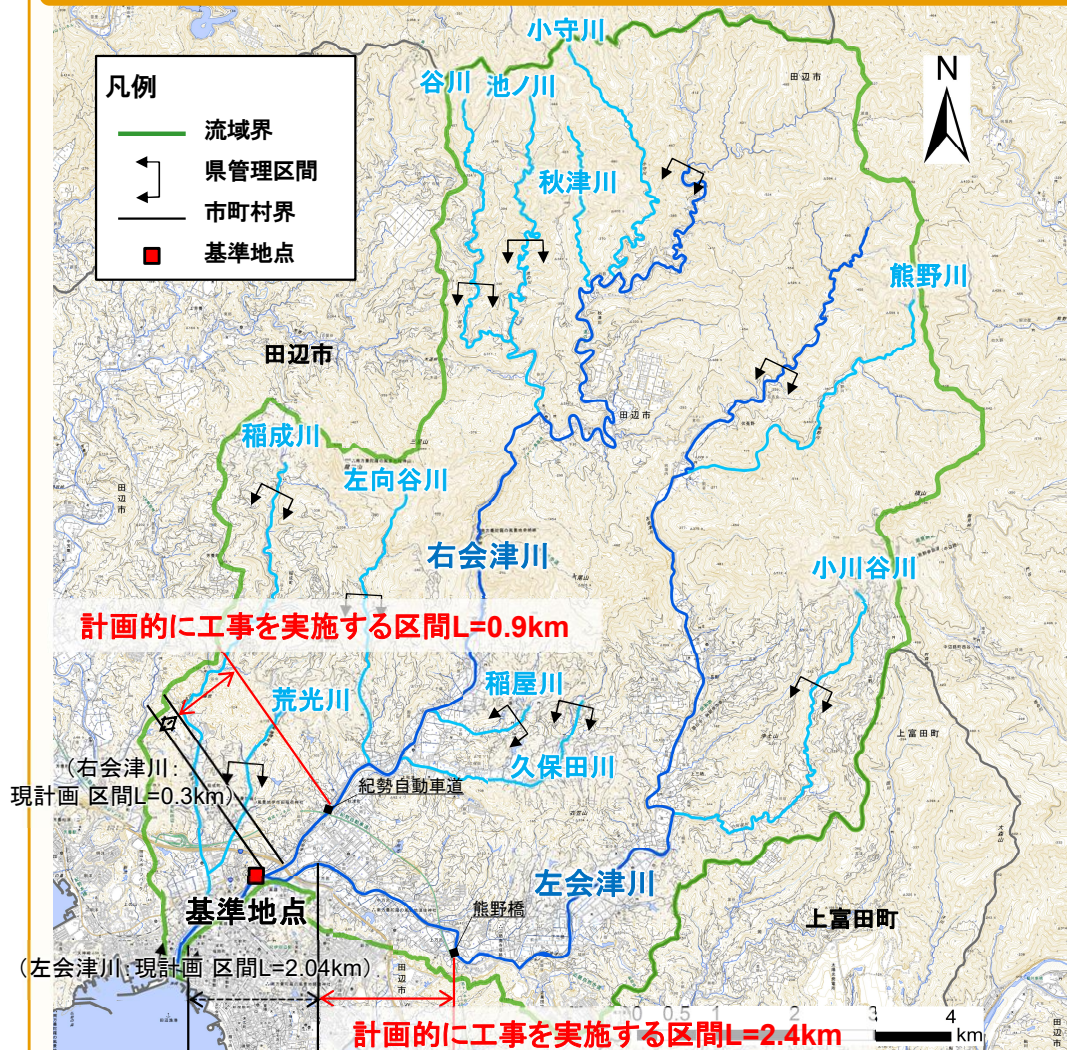


計画変更の検討に至った背景

- 平成15年11月に河川整備計画を策定し、同計画に基づき河川整備を段階的に実施。
- 計画策定以降、平成21年7月梅雨前線豪雨や平成23年台風12号等において、河川氾濫や内水氾濫等により、**浸水被害が発生**し、現計画における検証の必要性が生じた。
- 現計画に完成目途が立ってきたことから、**流域の更なる治水安全度向上**のため河川整備計画の**変更(延伸)**に着手。

計画変更のポイント

①河川改修区間を現行整備計画改修区間上流側へ延伸



②法律改正等を踏まえた変更

- 令和3年11月に全面施行された「流域治水関連法」を踏まえ、「流域治水」に関する記載を追加
- 例 「左会津川流域治水プロジェクト」のフォローアップについての記載を追加など

③その他の事項による修正

- 現計画に記載している統計データ等の時点修正
 - 文化的な資産の適切な保存・継承に関する記載を追加
 - 洪水による被害軽減に向けたソフト面の取組みを追加
- など

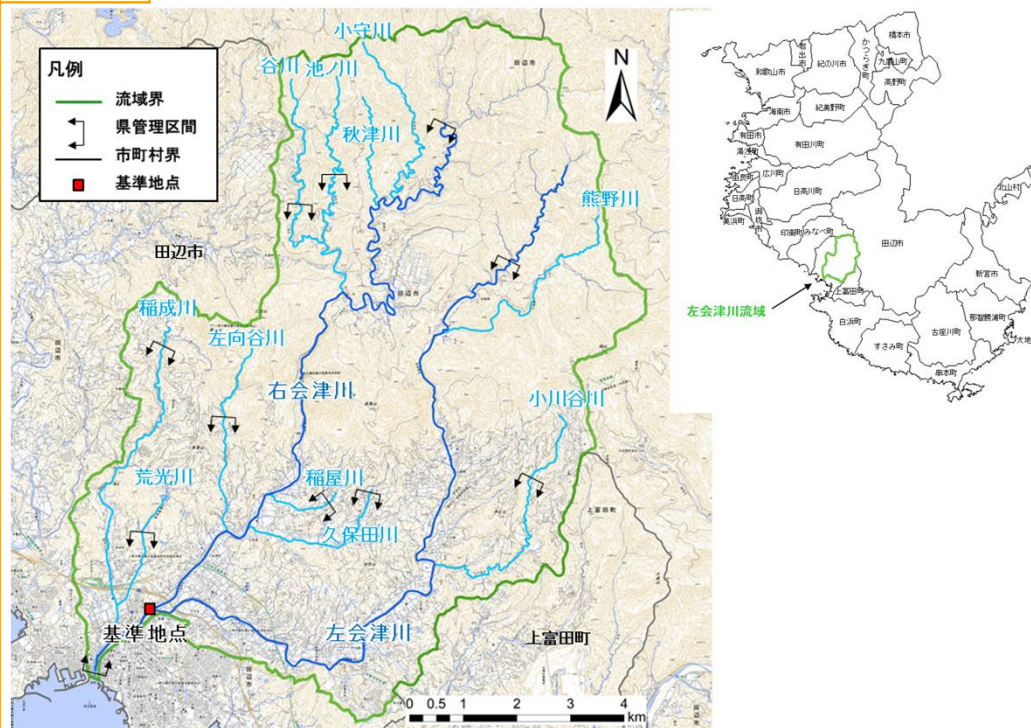
二級河川左会津川水系河川整備基本方針

左会津川
(概要資料)

- 平成13年10月に策定。
- 過去の浸水被害等を踏まえて年超過確率1/50規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とする。
- 基準地点(高山寺)において、基本高水のピーク流量を1,350m³/sとする。

流域図

- ・ 流域面積:84.7km²、幹川流路延長:20.2km



過去の浸水被害と治水事業

過去の被害		治水事業の沿革	
明治22年	8月の大水害	明治22年 大水害以降	河川敷拡張、連続堤防 化等の改修を実施
昭和36年	第二室戸台風	昭和30年～	中小河川改修事業
昭和37年	7月豪雨	平成2年指定 平成4年認定	ふるさとの川整備事業
昭和49年	台風8号		
平成2年	台風19号		

方針規模

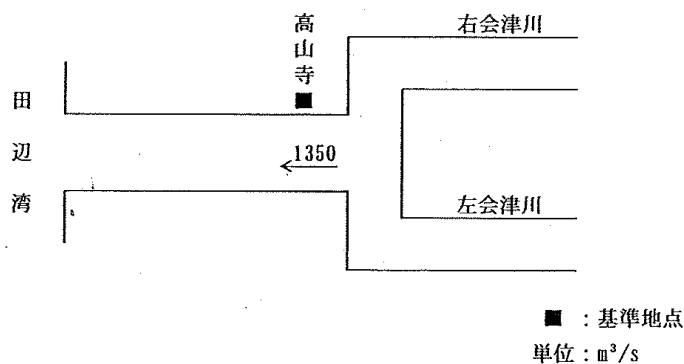
○過去の浸水被害や評価基準、県内バランス等を考慮し、年超過確率1/50の計画規模を採用

(評価基準) 以下4項目のうち、最低の規模を採用

- ・ 流域面積 (84.7km²) : 1/50～1/100 (採用)
- ・ 氾濫面積 (463ha) : 1/50～1/100 (採用)
- ・ 氾濫区域 人口 (1.5万人) : 1/50 ～1/100(採用)
- ・ 氾濫区域 総資産額 (2048.2億円) : 1/100～

計画高水流量

- ・ 基準地点(高山寺)で1,350m³/s



水利用

- ・ 河川水は農業用水として広く利用されている。
- ・ 右会津川合流点直下の左会津川において、田辺市の水道用水として利用されている。

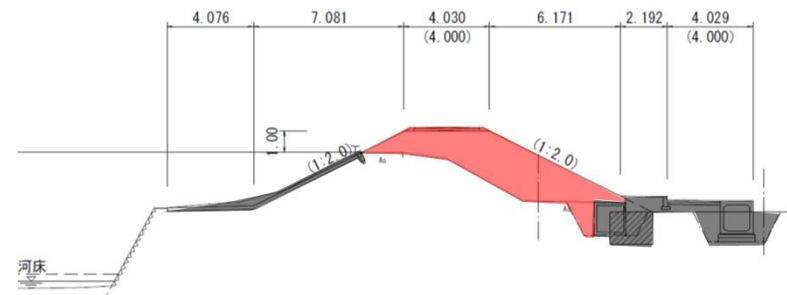
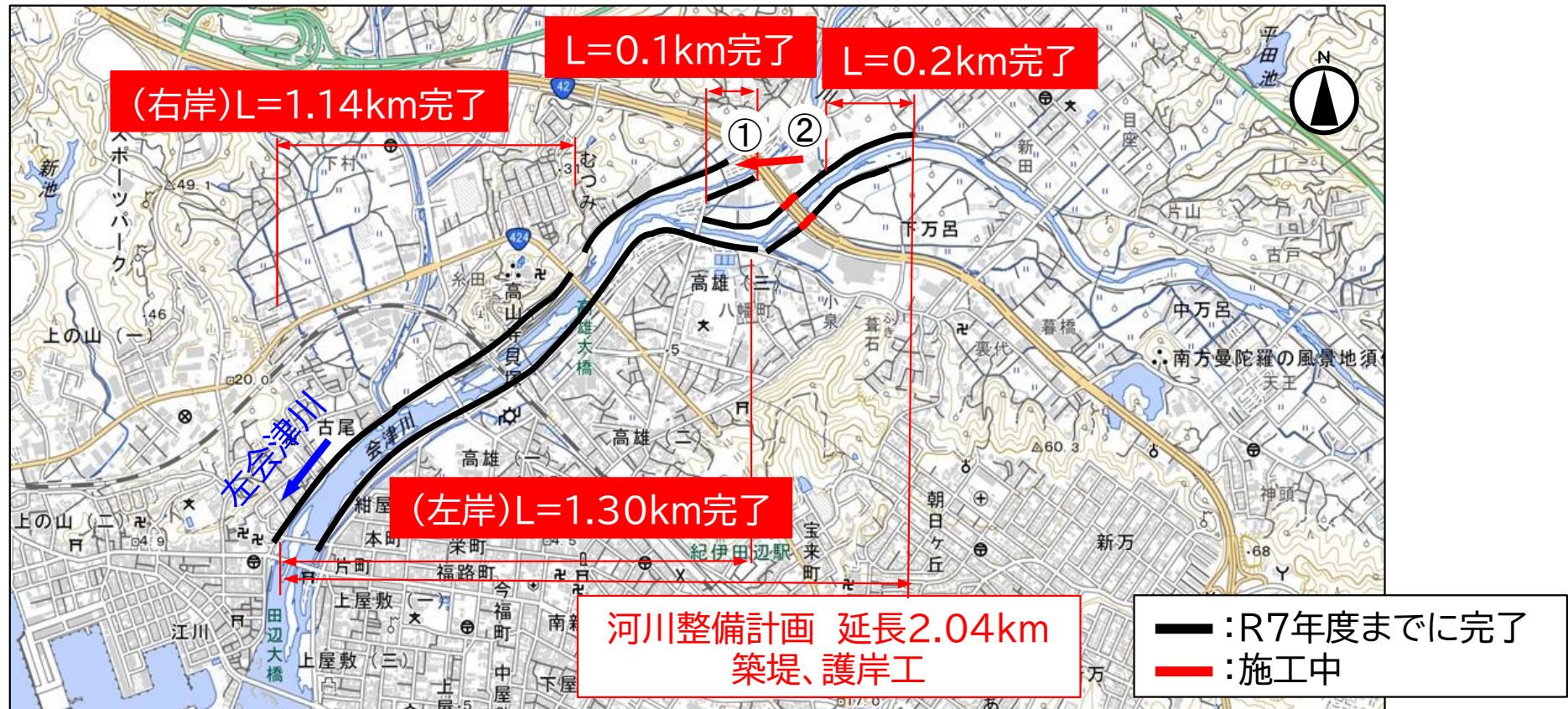
河川空間・河川環境

- ・ 左会津川は環境基準のA類型に指定されており、概ね良好な水質を呈している。
- ・ 上流部は山地・渓谷、中流部から下流部は平地、河口部は太平洋沿岸となる等、変化に富む環境を有していることから、多くの種類の動植物が生息し、豊かな自然環境を呈している。

二級河川左会津川整備計画の進捗状況

左会津川
(概要資料)

- 河川整備計画の策定(平成15年)から約22年が経過。
- 整備の対象は、左会津川:0.46k~2.50kまでの約2.04km区間、右会津川:左会津川との合流点~約0.30kmの区間。
- 整備メニューは、堤防嵩上げ、護岸整備、橋梁架け替え等。
- 進捗状況は、令和8年度末時点で概ね整備が完了する見込み。



近年の洪水被害の概要

左会津川
(概要資料)

- 平成21年7月梅雨前線豪雨や平成23年台風12号をはじめとして、平成28年梅雨前線豪雨、平成29年台風21号時にも浸水被害が発生している。

発生年月日	浸水家屋数(戸)		
	床上	床下	合計
H21.7.5~12	55	137	192
H23.8.30~9.7	126	151	277
H28.7.8~9	0	9	9
H29.10.21~22	0	5	5
合計	181	302	483

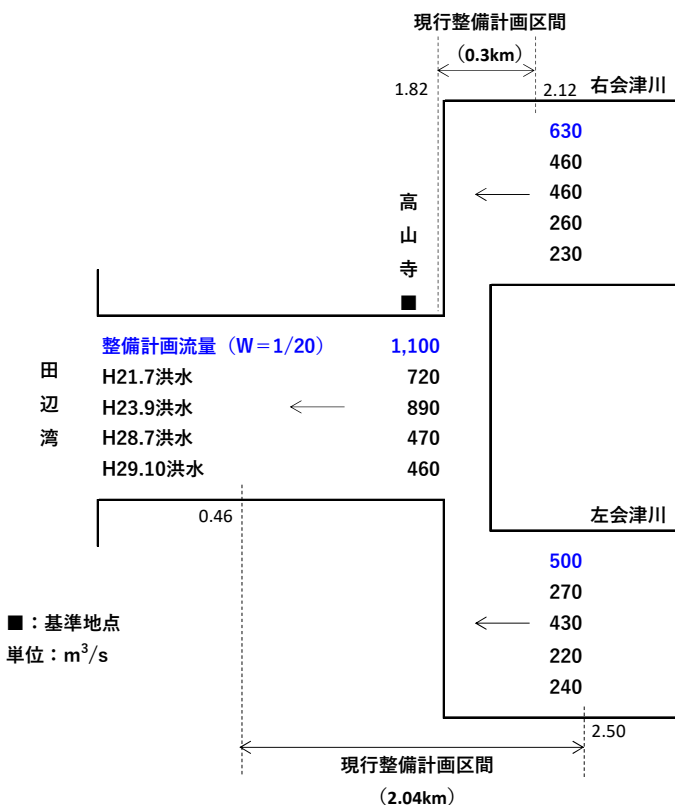


＜現行計画＞

- 河川整備基本方針：河川の規模や県内バランス等を考慮して計画規模1/50
- 現行整備計画：基本方針規模、流下能力等を考慮して整備計画規模1/20
下流部約2.0kmの区間において築堤・護岸整備・橋梁架け替えを位置づけ

＜実績洪水における流出量＞

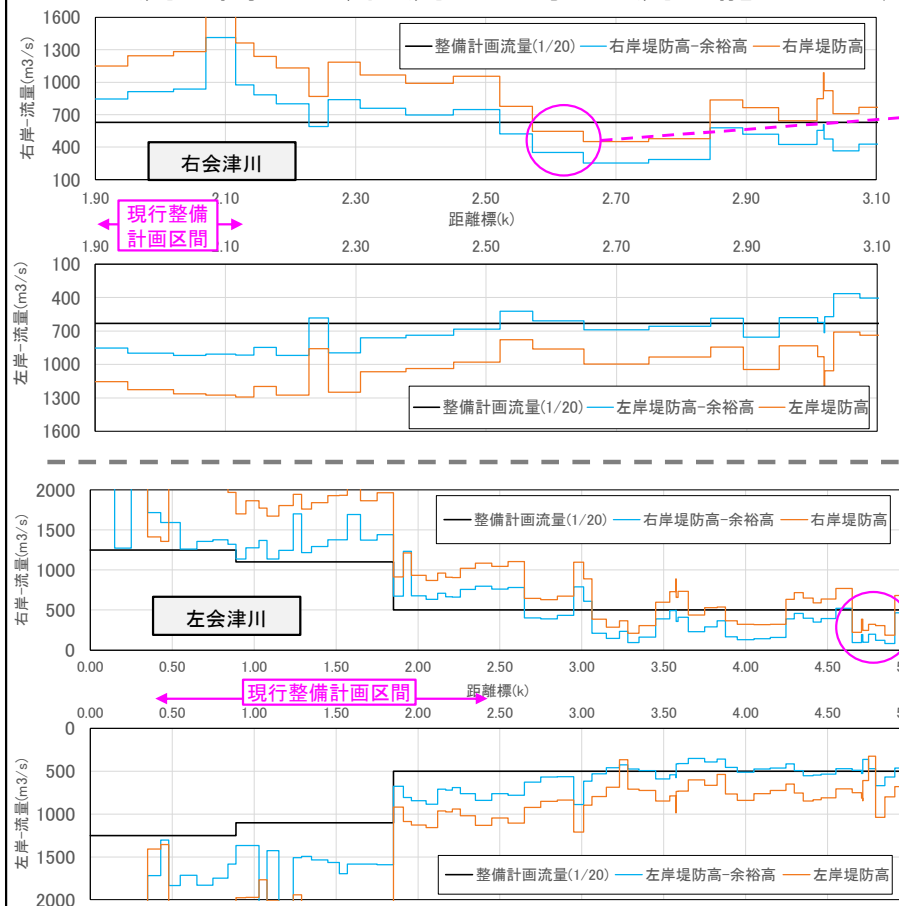
- 整備計画策定後浸水被害が生じた洪水の流出量を算定
→現行整備計画流量を超過しない



【実績洪水流量と計画流量配分図】

＜現行整備計画流量と現況流下能力＞

- 現行整備計画区間では、整備計画流量(1/20)をHWL以下で流下可能
- 上流区間では、同流量に対して流下能力が不足する箇所が多い



【流下能力不足箇所：光明橋上流付近】

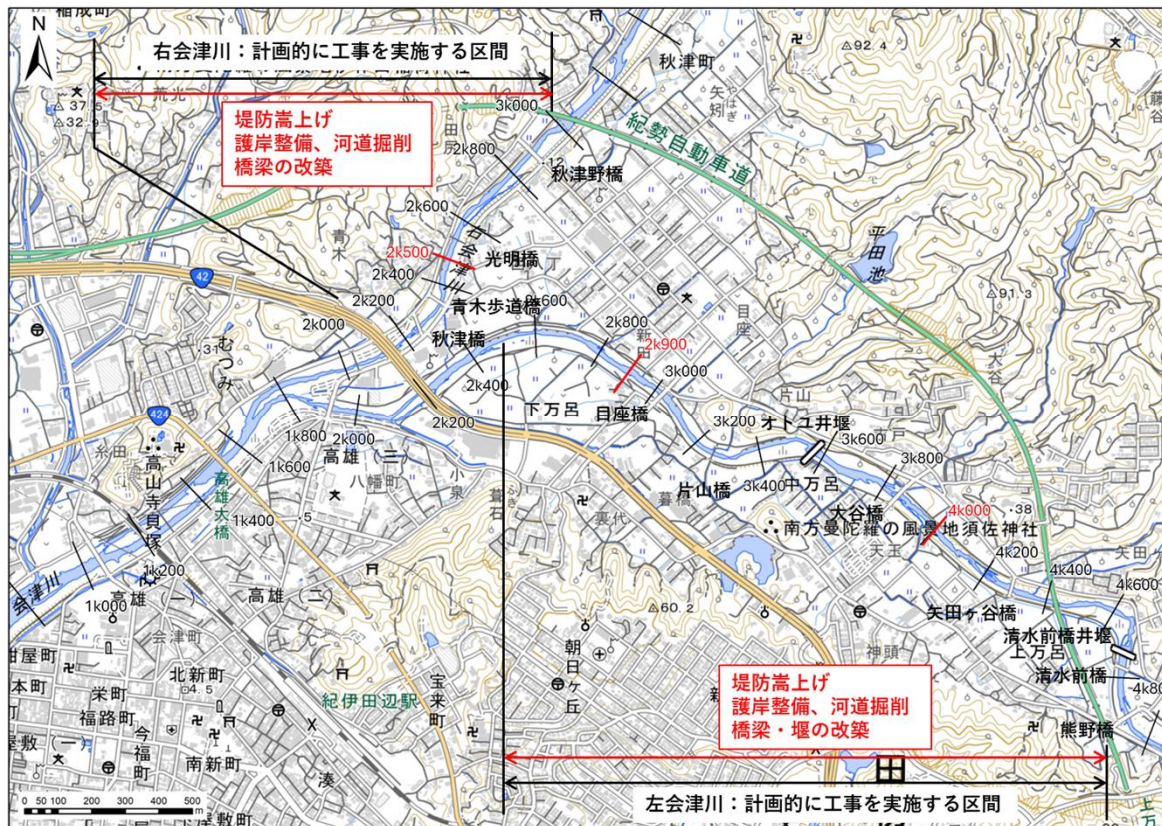


【流下能力不足箇所：熊野橋下流付近】

目標とする洪水の規模は据え置きし、整備計画改修区間を上流側に延伸する

○河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要(整備計画本文P. 8～11)

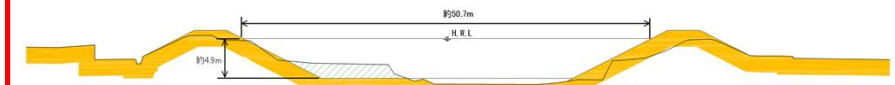
- 河川改修を行うことにより、年超過確率1/20規模の降雨により発生する洪水における基準地点高山寺での流量 $1,100\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させるものとする。
- 橋梁や堰等については、コスト縮減や完成後の維持管理を考慮し、関係機関と連携するとともに、既存施設の有効活用や施設の統廃合を検討の上、必要となる改築を実施する。



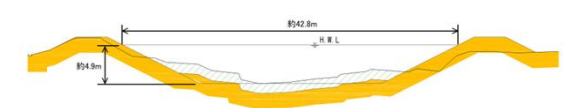
【計画的に工事を実施する区間】

河川名	施工の場所	工事の内容	機能の目的
左会津川	2.50k～4.90k	堤防嵩上げ 護岸整備、河道掘削 橋梁・堰の改築	流下断面の増大による流下能力の向上対策
右会津川	2.12k～3.02k	堤防嵩上げ 護岸整備、河道掘削 橋梁の改築	流下断面の増大による流下能力の向上対策

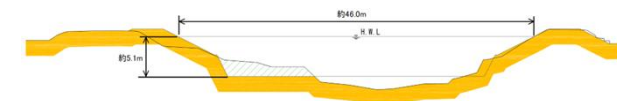
【左会津川(2k900付近)標準断面図】



【左会津川(4k000付近)標準断面図】



【右会津川(2k500付近)標準断面図】



(現状の河床形状をなるべく維持し、多様な河川環境の保全に努める)

現行計画整備区間より上流側の整備を位置付け

